



著者プロフィール

辻内京子（つじうち・きょうこ）

昭和34年 7月30日和歌山に生れる

平成9年 「鷹」入会

平成15年 「鷹」新葉賞受賞

平成18年 「鷹」星辰賞受賞

現 在 「鷹」同人

俳人協会会員

〈句集『蝶生る』より転載〉〈2008年8月29日時点〉

『蝶生る』（自選15句）

辻内 京子

父母のいさかひ見たり江戸切子
硝子戸は海の入口春の暮
奏者われ首の真珠の凍つるなり
さざなみを感じてゐたり雛の間
噴水の向かうの事件見てゐたり
炎屋の階段摺むところなし
雪の夜の化石の中の時間かな
箱の蓋開いてゐるなり枯野原
愛叫ぶロックや秋の金魚飢う
ゆふぐれの雲の色なりしやぼん玉
父の日の郵便局の暮色かな
石よりも岩しづかなりくるあけは
奥の間に琴の調べや鱧の皮
水指の蓋開いてゐる桜かな
大切な人の掌蝶生る